



大地協中学生以上の活動

Junior high and high school student activities

大地協の中学生以上の活動は、学童を卒業した子どもたちを中心に、高校を中退した子や大学生、社会人を含めた活動です。

夏には学童時代に利用していた琵琶湖のセツルの家に各施設のOB、OGが集まり学校では学べない社会問題や、子ども達にとって身近な問題を深めています。

活動の目的として、

- ① **社会に興味関心を持ち、自ら進んで考える力を持つこと**
- ② **多様な人と関り、様々な見方や考え方に気づく力を持つこと**
- ③ **新しい考えと出会い、比べることで、より考えを深化させる力を持つこと**

以上の事を大切に考え各施設が集まって活動しています。

共にあそび、生活することでもたくさんの学びが広がります。中学生から社会人の対等なかかわりは、今の時代に必要な関係です。



中学生以上の活動って？





活動の成り立ちと 私たちの目標

近年、「居場所」の問題が大きく取り上げられています。それは、端的に言えば今の子どもたちに「居場所」がない、「居場所」が必要であるという事実です（居場所はどの人にとっても必要です…）。

大阪市の不登校児童は全児童の約7%という数字で表れ、全国平均の4%を超えています。特に中高生の不登校が多数を占めているというデータもあります。小学生時代もちろん居場所が必要ですが、中高生（中退者も含める）こそ居場所を必要としている子ども達が多いと考えられます。

コロナ過で顕著に表れた、格差・貧困・差別・虐待の問題は、不登校、ヤングケアラー等中高生を取り巻く環境に繋がっているのではないのでしょうか。そんな中、中高生の居場所はどこにあるのでしょうか。クラブ？バイト？習い事？そこに属せない子は？生きるために必要な安心感のある居場所のない子どもたちが彷徨っています。今こそ子どもたちが安心して安全で自由な場所を、子どもたちと共に創り出す必要があります。



**中学生以上キャンプ
in びわ湖 セツルの家**

セツルの家の近くの
用水路を使って発電
の実験中！！
自然のエネルギーは
すごい！



聞くだけでなく、自
分たちはどう思った
か。
グループで話し合
います。



ゲストスピーカーからの学び

中学生以上キャンプでは、様々な分野のゲストスピーカーから、沢山の学びと気づきを広げてもらいます。過去に行ったテーマは
自分を大切にすることは？

「性教育について」

私たちが出来る地球を守ること

「環境問題について」

当事者、経験者から学ぶ社会問題

「虐待、差別問題について」

です。どれも専門家、または当事者の方にお話し頂いているので、学校やテレビで知るよりもより深く、より身近に感じれたのではないのでしょうか。

学びだけではありません！

日中は湖で遊び、夜は浜辺でBBQ！夜中は肝試し～！におしゃべりタイム！そんなこんなしているうちに、施設を超えて関り、繋がりが合姿が見られます。遊びすぎて次の日の朝は皆眠たそうです。



中学生以上からの 社会問題プレゼン





様々な意見が新たな気づきに！

ゲストスピーカーを招待しての学びも行いますが、それだけでなく、自分たち自身が共有した課題を深め、答えのない問いへの挑戦を全員の前でプレゼンします。

自分たちが興味を持ち、社会で起こっている疑問を絞って、一組30分程度のプレゼンを行いました。自分たちでは、答えが出ない疑問を、会場全員に問い掛け、グループで深め、再度全員の意見をまとめました。

自分たちで考え、深めた内容でも様々な意見が出るので、自分たちとは違う考えがある事に気づき、「あ～なるほど」と感じている姿が見られます。

普段の活動を大切に

プレゼンができるのは各施設が普段から「中高生会議」を行い、キャンプの期間が近づいてきたらプレゼン内容を話し合います。キャンプまでに3, 4回集まり自分たちの意見や調べてきた考えをぶつけ合います。

時には同窓会のような雰囲気の中、中学生～大学生までが和気あいあいと話し合っています。





ゲストスピーカーを 招いての学習会

～様々なゲストスピーカーから学ぶ～

テレビ局の裏話

2021/12/1

テレビやドラマが大好きな中高生！

テレビ局に勤める方からのお話を聞く機会を作りました。気になるテレビの裏側はもちろん、情報を扱う上では欠かせない、メディアリテラシーやネットリテラシーの話もありました。

現代において情報を正しく読み取る力の大切さを教わりました。特にインターネットにある情報はぱっと見て判断してしまいがちだが、他の情報と比べてみる事をしたほうがよく、疑ってみる事も大切であり、間違った情報に惑わされないように気をつけて欲しいという話がありました。

中高生からは「スマホから簡単に情報を得られる中、あまり疑って見ていなかった」「これからは深く考えてひとつひとつ判断したいと声が上がりました。その後は気になる質問タイム！

中高生からは様々な質問が。

- ドラマの主演はどうやって決めているの？
- 番組で素人を取り入れるときはどうやって探しているの？
- ずばりギャラは！？
- 視聴率はどうやって決まるの？

等テレビ局の裏側を知る事ができ、すごく盛り上がった学びの会となりました。

キャンプだけの学びでは無く、数か月に1回「学校では学べない」をテーマに様々な方を招いてお話して頂いています。事前に子どもたちにアナウンスし、興味のあるテーマを選び自由に参加しています。

また聞くだけでなく、自分たち自身が話す、意見を言う機会を作る事を大切に活動しています。

ヤングケアラー～当事者から学ぶ～

2021/9/21

近年急激にヤングケアラーという言葉が認知され始めました。そのヤングケアラーであった当事者から学ぶ時間を作りました。自分たちは気付いていないかもしれないが、実はヤングケアラーかも……。周りの友だちにそんな子が居るのではないか。そんな友だちを救うにはどうすればいいのか。

ヤングケアラーを知って、理解するところから始めようとの学びの会を開催し、中学生以上約30名が集まりました。

ヤングケアラーという言葉は授業で習ったことのある子から知らない子まで居ましたが、まったく知らないという子は少なかった。しかし、ゲストスピーカーの過去の経験を聞き、実は身近に起きる可能性がある事を知り、より身近に感じた子ども達。

スピーカーからは「大変やな」「かわいそうやな」という心配から出る言葉でも「親が悪いわけではないのに」と親の事、家族の事を悪く言われている気持ちになる事や、学生時代の生活では理解を得られず苦しんだ事を話してもらいました。

中高生からは「傷つけるつもりで言うつもりはないけど、この事を知らなければそういう言葉をかけていたと思う」

「これを機に学びを深め、自分自身が相談されやすい存在になりたい」と前向きな言葉が聞かれました。



これからの中学生以上の活動
～ミライへ～

大地協ならできる！！

現在複数の施設が一緒になり、悩みや考えを共有しながら居場所作りを進めています。是非他の施設の方も一緒に活動しませんか？

孤立してしまっている中高生に手を差し伸べたい。でも施設では制度というしがらみや規制、施設事情で動きにくい事もあると思います。

しかし大地協だったら手を差し伸べられるんです。大地協は制度にないニーズを掘り起こして活動してきたところに魂があります。施設単体では不可能でも、たくさんの施設が集まれば可能となり、それを実現できるのが大地協であると思っています。

大地協だからこそできる中学生以上の居場所作りを（あなたの地域にも、苦しんでいる子どもたちが必ず居ます）みんなで考えていきませんか。人と人が分断された社会に橋を架け、未来・夢・希望を一緒に描きませんか？大地協ならできる！！！！

生きるために必要な場所を

施設での中学生以上活動は定期的集まる事は少なく、年に数回の同窓会のような活動しか出来ていませんでした。施設での勤務の都合や職員の配置の問題等が壁となっていました。しかし大地協で中学生以上活動を共にすると、指導員数名では出来ない、学びや、キャンプという体験の場を作り、それが居場所へと変化していく事を実感しました。

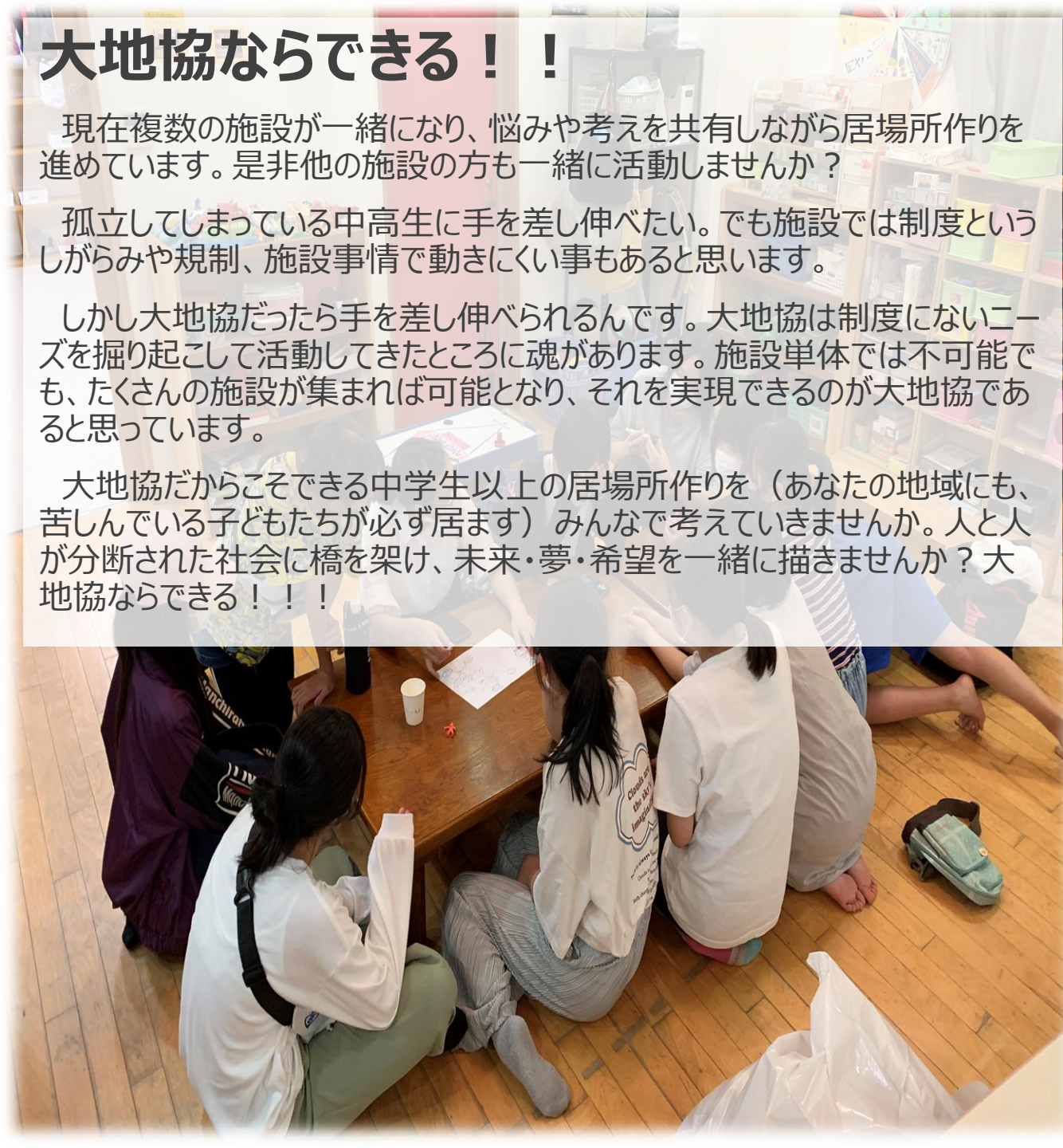
今年のキャンプは新型コロナウイルスの影響で延期を重ね、なんとか開催できるように！と思っていましたが、残念ながら中止となりました。

自施設ではコロナの感染が落ち着いた頃に、「キャンプ残念お泊り会」を行いました。その会ではキャンプでする予定だったプレゼンの内容を録画する以外は、ただただ食べたり、かくれんぼをしたり、語り合ったりと自由な会でした。

深夜2時ごろ眠い目をこすりながら中学生と一緒にしゃべっていると、「実は自分学校行けてないねん」と自分の思いを語り出す子が、その子を励ます周りの友だち。

次の日から学校に行けない時は朝から学童に。その子と繋がれたことにただただ感謝しました。

この時間を作る事が出来なければ、身近な子どもがずっと一人で苦しんでいたかもしれないと思うと胸が苦しくりました。



～ミライへ～

現在は学童の卒業生が中心となり活動しています。参加している子どもたちが、社会の諸問題を感じる中で、「そういえばあの子、学校来てないないねんな」「あの子、家でご飯食べてない話してたな」「お風呂入ってない子がいじめられてた」「塾とか行かれへんから、勉強なんてどうでもいいねん、ていうてる子いてんねん」「高校中退したけど再度挑戦したい子居てるねん」と、様々な悩みを持つ子ども達を この大地協へ連れてきてもいいかな？という展開を望んでいます。

逆境下にある子ども達だけを探し集めることは出来ません。また、いろんな環境の子ども達が集まる事で、多様性も広がります。

この活動を続けることで、人と人との繋がりに目を向け、地域社会の一員として自分の住んでいる町に誇りを持ち、多様な人の生きる姿に学びます。そして子ども達は少しずつ社会の一員として成長し、新しい自分を発見していく事が、より良い社会づくりに繋がると考えています。

様々な地域の方との関りを持ち、地域・福祉課題を共に発見し、子どもたちが将来、地域の担い手となるような活動を促していきたいと考えています。

私たちには夢があります。今参加している子どもたちが、「なあ、私たちが月に一回みんなの食堂やらへん！？」そんな言葉が出た時に支援できる大地協の活動でありたいと…。